

ブラジル最新政治経済情勢について

Insights from UBS Asset Management

ポイント

- ・大統領選の候補者が出揃う、与党連合での結束に成功したアルキミン氏の巻き返しに期待
- ・貿易戦争やトルコ危機など外部からの逆風に対し、足元のリアルは底堅さを見せる
- ・ポピュリスト候補の躍進などの政治リスクがやや後退し、回復基調のファンダメンタルズなどがリアルの下支え

ブラジルでは、各党が大統領選挙の立候補者と連立について決定

10月のブラジル大統領選挙に向けて、各政党は8月5日までに党大会を開き、大統領選挙の立候補者と他党との連立の有無を決定しました。15日に立候補登録期限を迎え、主な立候補者は以下のようにになりました。

ブラジル大統領選挙 主な立候補者

候補者		所属政党	連立状況(テレビ持ち時間・公的助成金)
ボルソナロ下院議員	右派	社会自由党(PSI)	少数連立(1%以下、1%以下)
アルキミン前サンパウロ州知事	中道右派	ブラジル社会民主党(PSDB)	現与党のうち9党の大連立(44%・47%)
メイレス元財務相	中道	ブラジル民主運動党(MDB)	現与党の2党連立(15%・14%)
ルラ元大統領	左派	労働者党(PT)	野党最大、4党連合(20%・16%)
ゴメス元財務相	中道左派	民主労働党(PDT)	2党連合(5%・5%)
シルバ元環境相	中道左派	持続ネットワーク(REDE)	2党連合(2%・2%)
ディアス氏	急進左派	ポデモス(PODEMOS)	少数4党の連合(5%・5%)

出所：各種情報を基に当社作成。上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

与党連合での結束に成功したアルキミン氏が優勢へ

中道右派のアルキミン氏は、議会で約7割の議席を持つ現与党連合のうち9党から支持を集め、ブラジル民主運動党(メイレス氏を支持)等を除く大連立樹立に成功しました。一方の最大野党の労働者党は、収監中で出馬が困難と見られているルラ元大統領を正式な候補としました。ルラ氏が出馬できなかった場合、副大統領候補のフェルナンド・ハダジ氏が労働者党の候補になると見られています。ただし、ハダジ氏がルラ元大統領の国民的人気を引き継ぎ票に繋げる可能性は低いと見られています。

ブラジルでは、政見放送の放送時間や公的助成金が所属政党の議席数により配分されることから、現与党の大連立に成功したアルキミン氏には優位に働くと見られています。今後選挙戦が本格化し、テレビでの政見放送が始まれば、放送時間の4割を獲得したアルキミン氏の露出度が高まるため、支持率が上昇する可能性があります。一方、これまで世論調査などで高い支持率を得てきたボルソナロ氏など少数政党の候補は、今後SNSなどのメディアに頼るしかない厳しい状況で選挙を戦うこととなります。ブラジルは、ある意味でポピュリスト候補を抑える政治メカニズムを持ち合わせています。

今後の世論調査では、アルキミン氏に対する低い支持率が改善していくと期待されます。同氏は、テメル政権が推進している改革路線を継承すると見られており、市場の信任も厚いことから、大連立の成功と支持の拡大が市場の安心感につながると見られています。このような期待が今後リアルを支える材料に加わる可能性があります。なお、過去の大統領選挙を振り返ると、直前に支持率が大きく変わることが多く見られ、選挙戦の動向から目が離せない状況に変わりはありません。

政治的な不透明感が払しょくされる局面では、ブラジル・リアルが見直される可能性

ブラジル中銀は景気・物価の基調判断を維持

ブラジル中央銀行は、8月1日の金融政策決定会合で、金利の据え置きとともに、「景気回復の継続」を堅持しました。春以降、ブラジルでは景気回復の足取りがおぼつかない状況が続いてきましたが、中銀は輸送業界のストライキに伴う物価上昇や景気減速は「一時的」との見方をとっています。中銀のインフレ見通しでは、2018年末のインフレ率は前年比+4.2%、2019年末は前年比+3.8%と予想されています。基調的な物価上昇圧力は依然として低いとの判断のもとで、歴史的な低金利環境が続く可能性が高く、引き続きブラジル景気をサポートすると見られています。景気のリバウンドペースはストライキ前の予想より緩やかになるとみられるものの、景気回復シナリオは引き続き維持されています。

逆風が続いてきたブラジル・リアル、足元では底堅さが増す

2018年前半には、大統領選挙に対する悲観的な見方や大規模ストライキ、さらには米国長期金利の急上昇を背景とした新興国資産からの資金流出といった複数の要因が重なり、リアルは急落しました。このため、中銀は通貨防衛のため大規模な市場介入に踏み切るなどの姿勢を強めました。

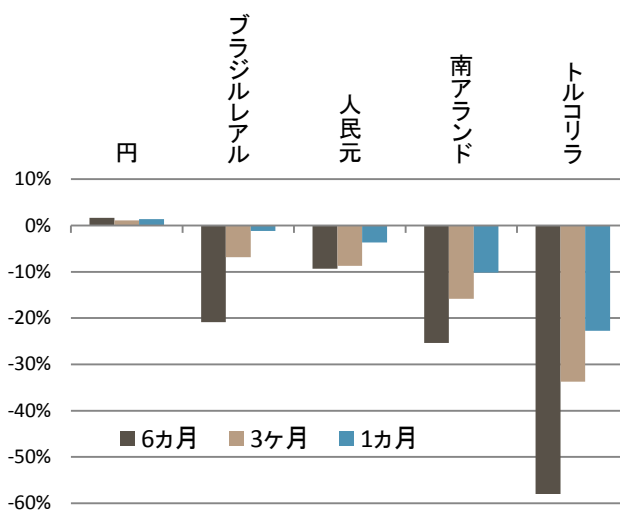
7月に入ると、米国へのマネー逆流や国内政治への過度な懸念などの後退に伴い、リアルは中銀の介入に依存しない形で安定化に向かっています。大統領選挙や米国金利上昇への警戒感は徐々に後退しています。最近のブラジルの経済指標もストライキの影響はあるものの景気回復の継続を示唆しています。

足元、トルコ危機の他の新興国への波及が危惧されていますが、リアルの下げ幅は限定的で、新興国通貨の中では相対的に落ち着いた動きとなっています。ブラジル経済においては、対外純債務の減少や外貨準備高の拡大など外的ショックに対する抵抗力が向上しています。また、ブラジル金融市場は米国の成長加速とドル高という大きな変化に適応する動きも見えます。

米国の保護主義が先鋭化する中、政治的対立が懸念される中国やトルコへの逆風が強まる一方で、影響が少ないと見られるブラジルやインドの資産が選好されやすい状況となっています。ブラジルにおいては、堅調な原油や鉄鉱石など商品価格や、ペトロプラスなどの好決算を受けた株式市場への資金流入なども追い風と見られています。

■対ドルでの円及び新興国通貨の騰落率

(過去1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月、2018年8月15日時点)



出所：トムソンロイター。上記のデータは過去のものであり、将来の動向を示唆、保証するものではありません。

商号： UBS アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第412号
 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、信頼できる情報をもとにUBSアセット・マネジメント株式会社によって作成されていますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料に記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

© UBS 2018. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。